

地域おこし協力隊が写真展「多可町の森の人」を主催

～モデル21組・写真100点を町内産檜のフレームで展示～

▼期間

2021年12月4日(土)～12月26日(日)

▼見に来ると、こんないいことがある ～年末におすすめのドライブコース～
手前味噌ですみません。まず、被写体が最高・写真がいい! もとい、ラベンダーパーク多可の見晴らしと名物「播州地卵の卵かけごはん、卵・ごはんがお変わり自由」(500円)がおすすめです。たまご用の醤油は20種類あります。「景色がよくて、安くて美味しいものが食べられて、写真も見られてよかったなー」と思っただけの帰っていただけるはず! ラベンダーグッズや採れたて野菜の販売も。



▼趣旨と構成

多可町の森林・自然環境に関わる人々の姿を通じて、町の魅力・特長をPRします。
モデルは「多可の森」を利活用する事業者・個人、全21組。写真100点を展示します。

▼主催

黒川直樹/兵庫県多可町地域おこし協力隊(担当:撮影・ライティング・チラシデザイン・SNS運営)



▼開催の経緯 その1 ～コロナ禍、森林の再評価

コロナ禍。多可町も密を避けたり、暮らしを見つめ直したりされた移住者・移住希望者が増えています。「なぜ、多可町に?」と伺うと、ほぼ「多可町は……なんか違うんですよ」と言われます。なんか違う……私自身、そう思って移住したんです。言語化できないまままだけど、森に答えがあるかもしれない……健康促進・健康寿命の延伸に作用するといわれるフィトンチッド(樹木が発する化学物質)が充満するなど、森林の役割も見直されています。私も森に入り、自分の体で感じたいと思いました。



▼開催の経緯 その2 ～森は文化や習慣のルーツ

多可町といえば森林。面積の約85%を占め、どこに行っても四方は山並です。だから天気が変わりやすく、霧深く、川が流れ、棚田があつて、しばしば鹿と遭遇する。和紙の原型ともいわれる杉原紙や酒米の最高峰・山田錦など、特産品もまさにこういった自然環境から生まれています。私は約1年、地域おこし協力隊として多可町を回り、取材するなかで「森林こそが多可町のルーツでは……?」と思うに至りました。



▼フレームは町内産の檜

写真フレームを町内産檜で製作。多可町を写真(目)で、そして香りで感じていただく趣向です。

▼同時開催のイベント

「#多可町山遊びフォトコンテスト」受賞作展示、「多可の森」を利活用する方のワークショップ※特産品マルシェを開催。 ※ヨガと体操、蠟燭作り、クリスマス飾り作り、特産品マルシェ、多可町懐かし映像上映会

▼写真展・イベント会場

ラベンダーパーク多可(※入園・入場無料です。 ※水曜日休館。展示も休止です)

〒679-1324

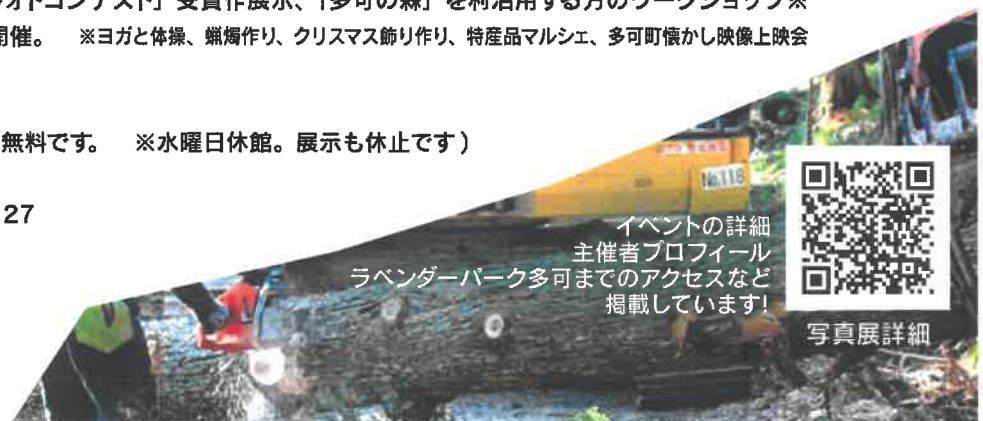
兵庫県多可郡多可町加美区轟 799-127

TEL 0795-36-1616

イベントの詳細
主催者プロフィール
ラベンダーパーク多可までのアクセスなど
掲載しています!



写真展詳細



写真展 Microscope vol.1

多可町の森の人

主催・撮影 黒川 直樹 (多可町地域おこし協力隊)



日時
2021年12月4日(土)～26日(日)
定休日 水曜日

モデル

山や森林の希少植物を守る人
町内材でオブジェを作る人
森や遊歩道を守る人
町の竹で作る人
ピザを焼く人
ヨガや体操をする人
森にカナダ式のハウスを建てた人
山林にログハウスを建造した人
森や林で教育を行うグループなど
モデル21組・展示数100点

会場

ラベンダーパーク多可 研修室
多可郡多可町加美区轟799-127
0795-36-1616

イベント(全て12月)

4日(土) オリジナル蜜蝋キャンドルづくり
5日(日) ヨガ&ゆらぎ体操
12日(日) クリスマス飾りのワークショップ
18日(土)～19日(日) 多可町特産品マルシェ
19日(日) 轍〜自然と共に生きてきた〜(多可町の懐かし映像)

協力

竹内晴行
マスタカオリ
山下世紀子
太田工務店株式会社
eaggon-n-haarre
森のようちえん つころね
株式会社まちの駅・太か(道の駅山田錦発祥のまち・太か)
多可町山遊びフォトコンテスト実行委員会
多可町地域商社 RAKU
多可町

写真展 Microscope vol.1

多可町の森の人

今回、未公開写真が約1000枚。
すべてご紹介したく、モデルご
とにWEBページを作りました。

散策道整備 (なか・やちよの森公園)

「この公園は、もともと里山だったんです。薪や萱を拾い、食べ物も採っていた。だから、広葉樹や針葉樹、いろんな木が生えている。それが一つ、この山の特徴ですね」



北はりま森林組合

「多可町の山は、人間の暮らしと共に変化してきたんです。加美区にしても、山の上のほうまで集落があるでしょう？ あれは、そこまで人が行って暮らした結果です」



有限会社 森安製材所

「たくさんの木材を切り出していた頃、その戸、工場の扉を外してね。交通整理の人に来てもらって、道路まではみ出す12m以上の丸太を挽くこともありました」



丸太の椅子づくり (なか・やちよの森公園 楽しむグループ)

「今日作った丸太の椅子は、私みたいな小学生でも、ちゃんと作れるように設計されていた気がします。思っていたより、うまくできました」



種子 哲雄さん

「多可町の山には珍しい植物やコケがいろいろあるんです」と話す種子さん。通算の登山回数は300回超。笠形山や千ヶ峰、氷ノ山など、特定の山に通うスタイルです。



足立 敏朗さん

足立さんは多可町の竹を用い、自然学校や生涯学習講座で竹細工を指導。取材の日、切り出した竹は50名を超える小学5年生が、皿と器、箸づくりに使いました。



マズダ カオリさん

「大きな大きな美しい芝生の広場が山をバックに広がる。鳥の音が響き、太陽が輝いて、雲が流れる空の下で芝生 yoga。大人も子供も全身でファートと発散、解放感を満喫です」



岡村 素美夫さん

ログハウスは岡村さんのお手製。全国の寺社仏閣の建て付け・仕口を参考にしたそうです。「材木は自分の山から切り出して、柱を立ててね。ぜんぶ一人でやりました」



株式会社 市位製材所

梱包材や杭・板などの土木資材を製材。創業は約100年前。大正時代から続く製材所を3代目・市位秀則さんが、お一人で守っています。



有限会社 森安木材店

バイオマスチップの製造現場を撮影。繁忙期は納品先まで1日3往復するそうです。写真に映える霧、正体は水蒸気。水分を含む木材は揉まれ、こすれ、圧され、白煙をあげます。



株式会社 安田製材所

「丸太は魚みたいなものですね。たとえばマグロなら赤身やトロなど、部位によって呼び名や特長、味が違うじゃないですか。丸太も同じ。見極められるまで、10年くらいかかるかもしれませんね」



稲刈り (なか・やちよの森公園 集うグループ)

なか・やちよの森公園の田んぼは1/5反。もち米が約50キロ収穫できるそうです。「収穫直前、鹿にやられた。残念ながら、収穫量がすこし減りました」とボランティアさん。



スオミガーデンズ

スオミガーデンズのシンボルは、お庭の真ん中に根を下ろす樺の木です。オーナーの美紀さんは「初めは、こんなにちっちゃかったのに」と笑って、ご自身の腰あたりに手を置きました。



多可の森健康協会 ガイド&ウォーキングの風景

多可の森健康協会が主催する「健康ウォーキング」のモットーは「がんばらない」。自分の体力・状態にあった負荷をキープしながら歩き、所要所で脈拍を計測します。



アサギマダラ&ラベンダーパーク多可

個体によっては2000kmを飛んで渡る蝶・アサギマダラ。可憐な姿が多可町で見られるようになったのは4年前。ラベンダーパーク多可が育てる「フジバカマ」の花が呼び寄せたそうです。



小林 勇哉さん

「家づくりの道具、いろいろ使ったんですが、一番大事だったのは水平器。おじいちゃんの見形です。もしかしたら、この水準器を使うために家を建てたのかなーと思うくらいパワーをもらいました」



間伐体験 (なか・やちよの森公園 育てるグループ)

木の選定から伐採〜引き倒し、枝うち、皮剥ぎと間伐の作業を一通り体験。皮を剥いだ生木は、化粧水に浸した肌のように潤いがあります。



太田工務店 株式会社

「7年前、『多可町の檜を使って家を建てる』と決めました。5年間は赤字続きでした。でも、一度決めたことですからね、やめられません。これからも出来ることを探してやっていきます」



egaon!naaare (エガオニナアレ)

「子ども達の作品は感性のままの表現で、完成にたどり着くまでの過程は、ひとつの物語を観ているようです。歳を重ねるごとに見えなくなってしまうものを、思い出させてくれるような」



森のようちえん こころね

「時間を忘れるんです、こうして子どもたちと過ごす時。そのあと、大人として……社会的な時間っていんですかね？ それをいちいち、体で思い出さなければならぬくらい(笑)」



chattana (チャッタナ) の森

「カフェ チャッタナ」やキャンプサイト・コテージ、バーベキューサイトを併設する chattana の森。施設全体で女性のワークシェアリングを進め、女性が活き活きと働かれています。

